

子ども同士で生き生き交流

～岩手&石川

支援のつながりを次世代にまでつなげたい

岩手県陸前高田市への継続した復興支援ボランティア活動を行ってきたコープいしかわ。7月27～30日には、陸前高田市の児童を石川県内に招待しました。陸前高田市の小学5～6年生の児童19人が、石川県の同学年の児童22人と楽しいひとときを過ごしました。

企画のねらいは、「被災地の児童が、石川県内の児童と交流を通して楽しい思い出をたくさん作ってほしい」というもの。組合員理事の奥迫敦子さんは、「コープいしかわは、今年度もボランティアバスを運行していますが、今回の企画もこれまでの交流を次世代にまでつなげたいという思いがあります」と企画意図について語ります。

27日に陸前高田市を出発した岩手県の子どもたちは、28日、石川県の子どもたちと初めて顔を合わせ、とうもろこしの収穫体験、昼食にはバーベキューを楽しみながら交流し、午後は和菓子づくり体験、金沢21世紀美術館見学などを行ないました。

「みんなとはすぐ仲良くなれたので、金沢の良いところを陸前高田の友達に教

えてあげたい」と話すのは、金沢市内から参加した竹本歩美さん。

20人参加した組合員ボランティアの一人、岡野淳子さんは、「震災を忘れないように、子どもには津波の被害に遭った子どもたちが来るんだよと話してあります。今回は、少しでも被災地の子どもたちの気晴らしに役立てたらいいなと思って参加しました」と話していました。



コープいしかわ本部の裏にある農園で行なわれた食育イベント「サタデーとうもろこし」に参加。生とうもろこしをガブリ！

子ども同士で生き生き交流

～福島&三重

はじける笑顔が島に広がった

7月29日～8月1日、コープみえ主催の企画「福島の子どもたちと友達になろう」が、三重県鳥羽市の離島の一つ・^{とうしま}答志島で行なわれました。三重県の子どもたちと、福島の子どもたちが、初対面に関わらず楽しい時間を過ごし、また、保護者にものんびりとした時間を提供しました。

島では、島の子どもたちと福島、三重の子どもたちで7～8人のグループを作り、スタンプラリーが行なわれました。指定された「サンデの底」や「西湖の井戸」を探し、「サンデ」の意味や井戸の水質に関するクイズに答えていきます。クイズの答えは地元の方に聞いてもいいので、通りがかったおばあさんに話しかけて教えていただく

など、地元の方との交流もありました。ちなみにサンデとは、島の言葉でサザエの意味です。

ゲームや海水浴やりに熱中する子どもたちを横目に、砂浜ではお母さんたちが日陰でのんびり。「子どもたちが外で遊ぶことを含め、当たり前だったことがすべて当たり前でなくなってしまう。『公園に行っちゃダメ』

というのも辛いです。ここは何も心配いらないのでほっとしますね」と、安心した表情で、同じ気持ちを持つお母さんたちと時間を過ごしていました。

「海は2年ぶり。とっても楽しい」と笑顔の横山祐人くん。子どもたちは、初めて会った同士とは思えないほど互いに打ち解け、笑い声が島中に広がりました。



親子共に参加できる保養企画は、好評だった。